

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 546 号	氏名	Jeremiah Waweru Gathirwa
学位審査委員	主査 尾野村 治 副査 畑山 範 副査 田中 正一 副査 真木 俊英		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、炭素－酸素結合に着目して、形成反応における課題を解決するとともに、効果的な開裂反応を開発して、簡素で効率的な反応系の開発を試みたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>多くの官能基と共存可能なベンジル化反応を開発できれば、有機合成の戦略を大幅に簡素化でき、誘導化法として分析法の改善にもつながる。本研究では、弱塩基を用いることにより官能基との両立を実現し、既存の反応と比較して著しく、反応を容易にした。また 2,6-置換フェニルエステルの Fries 反応を進行させるために、結合距離の長い <math>ZrCl_4</math> を適用させるという独自の発想に基づくものであり、高く評価できる。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>アルコール、カルボン酸、フェノールに対して、ベンジル基、パラメトキシベンジル基を無溶媒、3 級アミンの条件で導入できること、並びに 2 級アルキルハライドによる触媒的ベンジル化法など、効率的な分子変換反応を開発した。さらに、炭素－酸素結合の開裂反応を用いて、クロマトグラフィによる精製プロセスを必要としない機能性分子合成法を確立するなど。いずれの手法も有機合成、分析化学に広く応用可能である。以上の点から、これら研究結果と考察内容は高く評価できる。</p>			
<p>以上のように本論文は薬品構造解析学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			